

北斗句会 自選三句（令和六年） 五十音順

（五年六月と六年五月の間の三十六句から）

歩くかも 石田きよし

八十路にも母恋ふこころ蜆汁
歩くかも知れぬ大根引つこ抜く
孫むすめと五手詰めを解く小春かな

シルクロード 大崎石州

哈密瓜はシルクロードの馳走かな
タクマラカン熱砂の果てに入日かな
行き行きてシルクロードの早星

柿若葉 太田黒幸風

天然の匠の極み柿若葉
天高しでんと座したる阿蘇五岳
背景に満開の花皆笑顔



森田光彦 画

北斗句会 自選三句（令和六年）五十音順

初笑顔

大森康正

髭を剃り鏡に造る初笑顔
背中押し押されし友や入彼岸
晚鐘の渡る一村秋夕焼

優勝

川崎きごろう

春場所や優勝攫ふ新入幕
孫と飲む大吟醸酒秋の宵
柿若葉妻とふたりの食に添へ

夏氷

竹内雲泉

妻の手に匙握らせて夏氷
芋粥の味引締めよ塩ひとつ
春陰や新聞今朝もいくさ記事



森田光彦 画

北斗句会 自選三句（令和六年） 五十音順

茶飯事

田中資凡

厨跡らし路地裏の五月闇
秋の虹妻の声あり生きめやも
茶飯事と朝寝の妻の背をさすり

友

長池豆陽

兄の手の強き記憶や夜店の灯
逃避行を語りし友よ敗戦忌
打ち込みの強き友の書淑気満つ

夏料理

藤田紀潮

ラムネ抜く気泡のなかにある昭和
白秋碑十重に二十重に赤とんぼ
夏料理 港横浜十五階



森田光彦 画